

「はぐくみプラン」実施状況調査の結果について

I 調査の概要

1 調査の目的

山梨県教育委員会では、子供たち一人一人の個性を大切にしながら、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、豊かな心を育成することを目的に、「はぐくみプラン」を実施し、教育環境の整備を進めてきた。

本アンケートでは、はぐくみプランの対象学年において、少人数学級編制が行われることにより、どのような指導が可能になり、どのような効果が得られたかについて、検証を行う。

2 調査実施時期 令和元年6月12日（水）～令和元年6月25日（火）

3 調査対象

令和元年度のはぐくみプラン実施校の学校長

	学校長
小学校	70名
中学校	49名
計	119名

4 調査内容

はぐくみプランの効果について

5 調査結果の概要

アンケートは、はぐくみプランの有効性や効果について「① 学習環境」「② 児童生徒の人間関係・生活環境」「③ 学校経営・運営」の視点で項目を立て、それぞれについて「1 そう思う」「2 どちらかといえば、そう思う」「3 どちらかといえば、そう思わない」「4 そう思わない」を選択した後、具体的な効果が感じられた児童生徒の姿等を記述する調査を行った。

調査結果については、上述の3つの視点について、各項目の数値データから読み取れる成果の概要とそのグラフ、特に効果が認められた具体的事例についてまとめた。

II 「はぐくみプラン」の効果

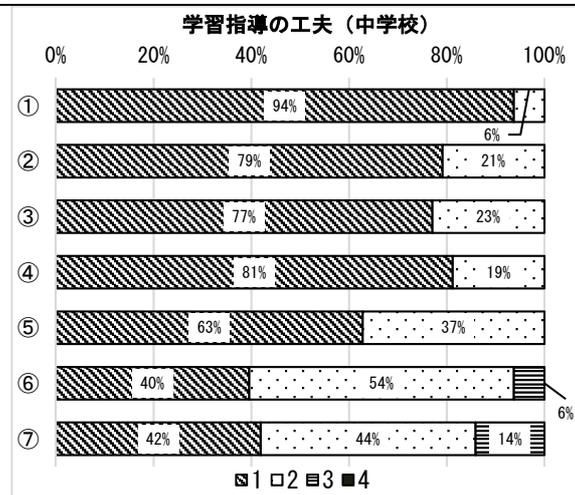
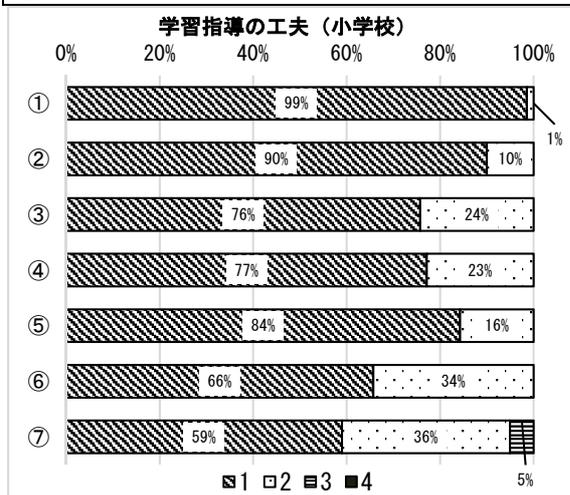
1 学習環境の視点より 認められる

「はぐくみプラン」により、一人一人の学習状況を把握してきめ細かな指導の充実を図ること、学習内容の定着具合に応じて補充的な学習を行うこと、小集団を活用して個々の発言を増やすことに対し、成果が認められた。

また、学習指導を工夫したことから、児童生徒が興味関心をもって意欲的に学ぶようになり、多様な考えや意見を出し合い学び合うことができるようになったと考えられる。学習に対し様々な工夫を行ったことにより、基礎的・基本的な学力を身に付けることにも効果が得られたと考えられる。

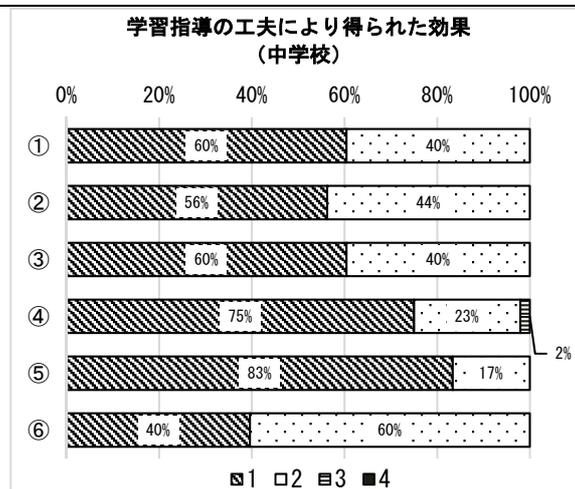
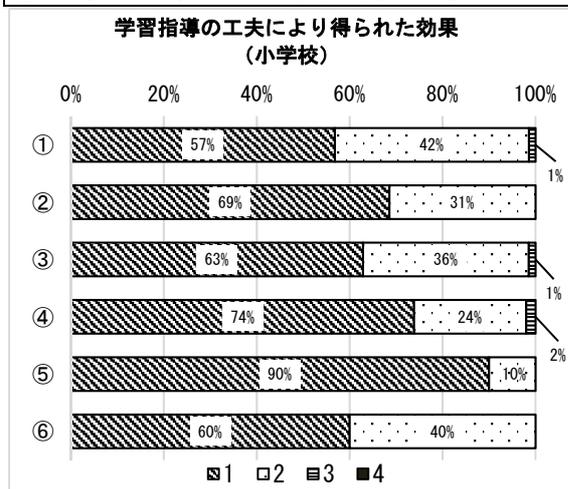
(1) 学習指導の工夫

①	一人一人の学習状況を把握し、きめ細かな指導の充実を図ることができる。
②	学習の遅れが見られる児童生徒に、補充的な学習を行うことができる。
③	小集団を活用するなどした協働的な学習を展開することができる。
④	発言の機会を増やしたり、話し合いの時間を充実させたりすることができる。
⑤	実験等豊かな体験を保障する学習環境を整えることができる。
⑥	教材、教具や学習シートなどを個別に準備することができる。
⑦	運動会、学園祭等の学校行事でも活躍する場を多く設定することができる。



(2) 学習指導の工夫により得られた効果

①	授業中の児童生徒同士の話し合いが活発になった。
②	自分の意見を述べたり、まとめたりすることができるようになった。
③	多様な考えや意見を出し合い、学び合うことができるようになった。
④	興味関心をもって意欲的に学ぶようになった。
⑤	基礎的・基本的な学力が身に付いた。
⑥	考えたり判断したりする力が高まった。



(3) 学習指導の工夫により得られた効果の具体的事例

○少人数学級編制になることで、授業において、児童生徒一人当たりの発言する回数や時間が増え、教師からの声かけ、助言等を受ける機会も増えた。また、家庭学習や生活面においても、教師からの支援等を受ける機会が増えた。

A 中学校：平成30年度の学校評価における生徒用質問項目では、「授業中に発表や発言をしますか」に対して、「よくする」「どちらかというとする」と回答した生徒は、はぐくみプランを活用している学年の57%に対して、活用していない2学年はそれぞれ34%と29%であり、明らかに差が生じている。これは、はぐくみプランによる教職員によるサポートや支援が功を奏していると考えられる。

○自分の意見をまとめたり述べたりすることが苦手な児童に対し、授業中に個別指導を行う機会が増えることにより、そのような児童生徒の実態が改善された。

B 小学校：継続的に言語活動を授業の中に取り入れており、ペアやグループでの話し合いを仕組んでいる。学校評価アンケートの「授業中、自分の考えを説明したり友だちの考えを聞いたりしていますか」の質問に対して、児童の「あてはまる」の割合が年々増加している。

C 中学校：第3学年の数学では、小集団によるグループ学習を取り入れており、教え合いや考え方の意見交換が、二人の教師によるきめ細かいグループへの指導により以前より活発となっている。その結果、単元末のテストやプリントの結果も、以前は無回答の生徒が各クラス15人程度いたが、今は無回答者がほぼ0になってきている。

○学年の学級数が増えたことから担任同士が協働して取り組むことが可能となり、複数の教師の目で児童一人一人の実態を捉えたり、実態に応じた学習シートや教材を作成したりすることができた。

D 小学校：個に応じた教材教具の準備や学習課題の準備を行うことで、児童の学習進度に合わせた効果的な指導を行うことで児童の学習意欲が高まった。

E 中学校：昨年度は複数の教員で教える授業を設置が困難であったが、今年度は9コマの授業で、チームティーチングや習熟度学習など、生徒の実態に合わせた指導ができています。

○個別指導が充実することによって、個々の児童生徒が抱える課題に目を向けることができ、早期に課題を発見し対応することが可能となった。これにより、基礎的・基本的な学力を身に付けさせることや特別な支援を要する児童生徒への対応が可能となった。結果として、学級全体としても落ち着いて学習を行える環境づくりにもつながった。

F 中学校：学校評価における「先生たちは、授業で分からないところを分かるまで教えてくれる」の項目に対する生徒の回答が、H28年度は85.1%、H29年度は87.8%、H30年度は91.6%と向上してきている。

G 中学校：はぐくみプランの対象ではなかったH29年度第2学年の7月から12月にかけての学力試験の伸び(5教科合計の平均値)が+16.0ポイントであるのに対し、はぐくみプラン対象であるH30年度の第2学年は、+20.6ポイントと、きめ細かな指導をすることで、伸びが大きく基礎学力の定着が図られている。

○少人数学級編制になることにより、授業において、1単位時間あたりに児童生徒一人一人に割ける時間が増えた。年間を通じて考えるとその成果は大きい。

H 中学校：机間指導における一人当たりの指導機会・時間をより多く確保することができ、より個々の基礎学力向上につなげることができることが、単元末テストや定期テストの結果からみることができる。

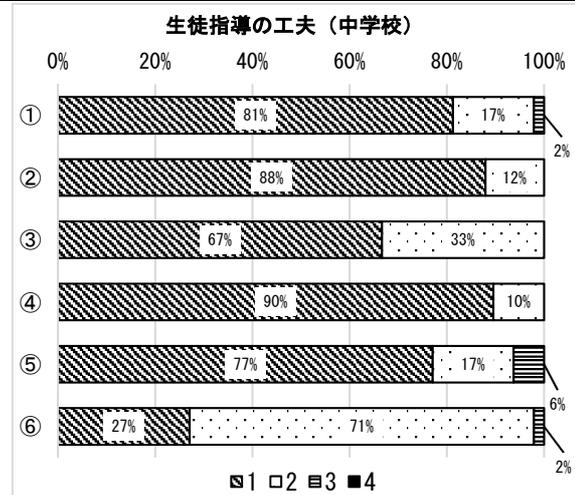
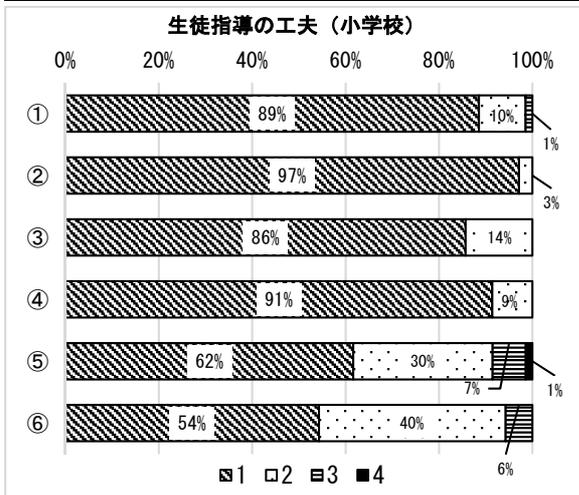
2 児童生徒の人間関係・生活環境の視点より

「はぐくみプラン」により、教師と児童生徒のコミュニケーションが充実すること、児童生徒理解が十分に行えること、児童生徒が抱える問題へのきめ細かな早期の対応ができることに対し、成果が認められた。しかしその一方で、保護者との連携や児童生徒同士の関わりの充実に対し、更なる工夫が必要であるという回答も見られた。

また、生徒指導を工夫したことから、基本的な生活習慣を守って学校生活を送る児童生徒が増え、児童生徒がお互いの特性を把握することから人間関係が深まり、教え合ったり助け合ったりする中で学級のまとまりも向上していると考えられる。

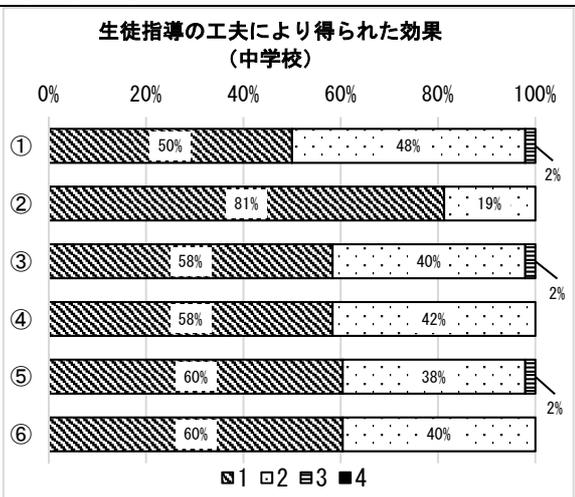
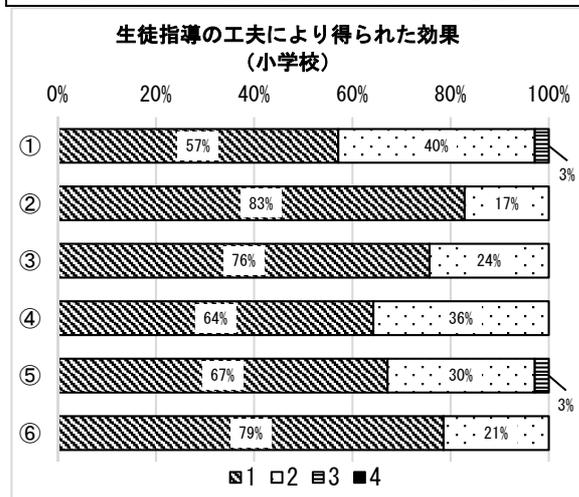
(1) 生徒指導の工夫

①	日常の観察や生活の記録から児童生徒理解を十分行うことができる。
②	話を聞いたり、声かけを多くしたりするなどのコミュニケーションの充実を図ることができる。
③	あいさつ、持ち物（服装・髪型）、時間を守るなどの基本的な生活習慣を、きめ細かく指導することができる。
④	いじめ、不登校、問題行動など、児童生徒が抱える問題へのきめ細かな早期の対応ができる。
⑤	保護者との連絡を密にとり、指導に生かすことができる。
⑥	人との関わりの中で、多様なものの見方、考え方に触れる機会を充実させることができる。



(2) 生徒指導の工夫により得られた効果

①	児童生徒がお互いの特性を把握する機会が増え、人間関係が深まった。
②	学級に落ち着きが生まれ、学級のまとまりが向上した。
③	様々な活動に集中して取り組む児童生徒が増えた。
④	友達を思いやり、児童生徒間で教え合ったり、助け合ったりする児童生徒が増えた。
⑤	係活動等、個々の役割が充実し、責任をもって仕事を行うことができる児童生徒が増えた。
⑥	基本的な生活習慣を守って学校生活を送る児童生徒が増えた。



(3) 生徒指導の工夫により得られた効果の具体的事例

○担任の目が行き届くようになったことで、課題を抱える児童への対応がより丁寧に行えるようになった。

I 小学校：本校教員へのアンケート調査において、はぐくみプランの導入により児童生徒理解を十分に行うことができる、また、児童生徒が抱える問題にきめ細かに対応できると回答した割合が、それぞれ90%を超えている。学級に落ち着きが生まれ、学級のまとまりが向上したと回答した割合も86%と高い数値を示している。

J 中学校：早期の声かけや指導により、多くの生徒が安定した状態であり、基本的な生活習慣が確立している。小学校時代に不登校、不登校傾向であった生徒5名も全員登校できている。

K 中学校：生徒や家庭にきめ細かな対応ができるため、学校評価の中の生徒理解を含む生徒指導についての設問では、「満足」「ほぼ満足」と答えた教師は前年度52.2%から84.4%に上がった。

○教員が一人一人に対してきめ細かな指導が行えるようになったことで、基本的な生活習慣を守って学校生活を送る児童生徒が増えた。

L 小学校：昨年度の第6学年の全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、「学校のきまりを守っていますか」の項目に対して「当てはまる」と回答した児童の割合が、山梨県や全国の平均より10ポイント以上高い数値を示した。

○児童生徒がお互いの特性を把握する機会が増え、人間関係が深まった。その結果、学級全体に落ち着きが生まれ、様々な活動に集中して取り組むようになった。

M 小学校：H30年度（小1はぐくみ）の6月と12月に実施した人間関係を調査するテストの結果を比較すると、「学級生活満足群」が59%から86%に増加した。

N 中学校：一昨年ははぐくみプラン対象ではなく、昨年度対象になった第3学年では、学校評価の「学校は楽しいですか」について、「とてもそう思う」の数値が48.7%から60.8%に向上した。

○係活動等、個々の役割が充実し、責任をもって仕事を行うことができる児童生徒が増えた。

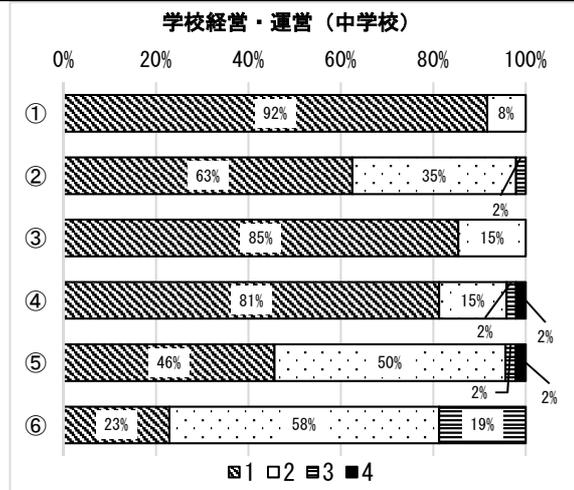
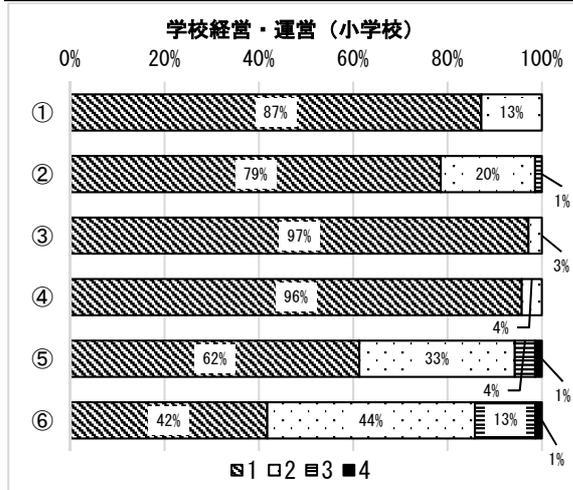
○小学校：少人数だからこそ一つの係活動を担当する児童数は少ないため、人任せにするのではなく、一人一人が責任をもってよりよい学級のために係活動や当番活動を行うようになった。結果として、係活動への関心が高まり、仕事を創造し自主的に活動する姿が見られるようになった。

P 中学校：一昨年ははぐくみプラン対象ではなく、昨年度対象になった第3学年では、学校評価の「委員会活動にしっかり取り組んでいますか」について、「とてもそう思う」の数値が62.0%から76.0%に向上した。

3 学校経営・運営の視点

「はぐくみプラン」により、児童生徒の実態を詳細に把握し課題に対して共通理解を図ること、諸問題や安全管理に対して支援体制を整えること、職員同士が学び合う機会をもつことに対し成果が見られた。一方で、特別教室の活用については、1学級当たりの児童数が少なくなることで理科や家庭科の器具等を効果的に扱うことができるようになる反面、学級数の増加に伴い時間割編制等で工夫が必要になる側面もあることが考えられる。

①	児童生徒の実態を詳細に把握することができる。
②	個々の課題に対して共通理解を図りやすい。
③	教職員が増えることにより、学級経営上の問題が生じたときの支援体制を整えやすい。
④	校外学習の付き添いなど安全管理の点で連携して指導に当たることができる。
⑤	学級数が増えることにより、学年の職員同士の情報交換や学び合い等の実践を交流する機会が増え、校内研修の充実を図ることができる。
⑥	特別教室（図書室、コンピュータ室、理科室、図工室、音楽室等）が活用しやすくなる。



(1) 学校経営・運営に関して得られた効果の具体的事例

○担任の事務量が軽減し、生徒とのふれあいや保護者との連携がこれまで以上にきめ細かく行われ、児童生徒の実態を詳細に把握することができた。

Q 小学校：本校の教員へのアンケート調査では、はぐくみプランの導入により、児童生徒実態を詳細に把握できると回答した割合が95%と高い数値を示し、児童生徒理解及び学級運営に関し大きな効果が生まれていると考えられる。

R 中学校：はぐくみプランにより、1学級当たりの生徒数が39人から31人になっているので、担任の事務量が単純に約20%の軽減している。そのことにより教員が生徒の日々の様子を観察することができ、学級内での問題が大きくなる前に対処できている。

○児童生徒一人一人と関わる時間が増えたことにより、児童生徒の自己有用感が育まれている。

S 小学校：学校評価の児童アンケートで、「先生方はあなたのことをよく分かっていてくれていますか」という問いに対し肯定的な回答をした児童の割合が90.5%から90.7%に増加した。

T 中学校：昨年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「先生は良いところを認めてくれている」と9割以上の生徒が答えている。教師が生徒一人一人に目が届き、声かけ等指導が行き届いているからだ考える。

○問題行動等への早期発見、早期対応ができ、複数の教員での対応が可能となった。

U 小学校：平成30年度11月の学校評価より、「問題行動等（いじめ・不登校など）の早期発見・早期対応ができている」及び「児童生徒の健全育成のために、学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている」の項目についての教職員自己評価が、いずれも肯定的回答が100%であった。

V 中学校：学校評価の「課題や方法の共有」に関して、H29年度調査83.8%に対し、H30年度調査は100%になっている。いじめ・不登校などの問題に対し、複数職員での対応が可能になった。また、授業時間での急な対応が必要なときにも、他の生徒の支援体制がすぐに仕組める環境になった。

W 中学校：学校評価において、「困っているときに相談できる先生がいる」回答した生徒が前年度に比べ6.7%増加した。また、「学校が楽しいと思う」に対し肯定的に回答した生徒も、前年より1.7%増加した。